

曲目紹介

今回のプログラムの中で元々バイオリンとギターのために作曲されている曲は一つも無く、すべてブラーボさんの編曲によるものと思われます。

【第1部】

【タンティ アンニイ プリマ】

イタリア語では **Tanti Anni Prima** で **tanti** (多くの) **anni** (年) **prima** (前の) という意味なので全体では (昔々) のような意味です。作曲者は有名なアストル・ピアソラ (Astor Piazzolla, 1921—1992) です。もともとは歌曲「アヴェマリア」として作曲されていました。(アヴェマリアといえばシューベルトやグノーの曲が有名ですね。) ピアソラが 1984 年のイタリア映画「エンリコ 4 世」の音楽を担当した際に、このアヴェマリアの旋律をオーボエの曲として編曲しました。その際のタイトルが「**Tanti Anni Prima**」です。映画「エンリコ 4 世」は仮装パーティーの最中に落馬し頭を強打したことから、自分が 11 世紀の神聖ローマ帝国皇帝・エンリコ四世 (ドイツ語表記ではハインリヒ 4 世) だと勘違いしてしまった男の物語です。

【首の差で】

原題はスペイン語でポル・ウナ・カベサ (**Por una cabeza**) です。Por (前置詞 ~によって) Una (一 (いち)) **cabeza** (頭) という意味ですが、全体では競馬用語で首 1 つの差で勝敗がついたことを表しています。作曲者のカルロス・ガルデル (Carlos Gardel, 1890—1935) は不世出の**タンゴ歌手**として知られる**アルゼンチン**の歌手・俳優でした。首の差は 1935 年の映画「タンゴ・バー」(**Tango bar**) の挿入歌として作曲したものです。当然、競馬で負けたことをくやしがる曲ではなく、ほんの少しのことで恋が成就しなかった男の気持ちを表しています。

【終わりなきダンス】 ギターソロ

現代アルゼンチンを代表するギター奏者／作曲家であるキケ・シネシ (**Quique Sinesi 1960-**) の代表曲です。1998 年にリリースされた際にはギター、ピアノ (+ピアニストの声) の編成でした。ネット上ではギター+尺八なる演奏も聞くことができます。

シネシは昨年の来日の際には淀江のゆう&えん Q ホールでリサイタルを行っていました。

【アルフォンシーナと海】

アリエル・ラミレス (**Ariel Ramírez, 1921—2010**) が 1969 年に作曲した 8 曲から成る歌曲集“アルゼンチンの女たち”の中にあるサンバ形式の曲です。アルフォンシーナはアルゼンチンの女流詩人の名前です。病魔に冒され 1938 年に 46 歳で入水自殺する直前に残した彼女の詩を引用した歌詞にラミレスが曲をつけました。メロディーが美しいので古くからギターソロでも演奏されてきました。アルゼンチンでは国家的な歌手メルセデス・ソーサが歌っていて大変有名です。

【ブエノスアイレス組曲】

作曲者はギター奏者でもあるマキシモ・ディエゴ・プホル - Maximo Diego Pujol (1957-)で、本来の編成はフルート+ギターです。プホルはピアソラの影響を強く受けており（当たり前？）、このブエノスアイレス組曲もピアソラの名作“ブエノスアイレスの四季”や“タンゴの歴史”になった曲になっています。4つの楽章のタイトルはブエノスアイレスの4つの地区の名前です。

現在の観光案内によればパレルモは最新流行エリア、サンテルモは下町地区、マイクロセントロは金融の中心地（ポンペイヤは不明）ということです。作曲された当時は違うかもしれませんが。

【第2部】

【オブリビオン】

第1部冒頭の曲タンティ アンニイ プリマと同じく1984年のピアソラの映画“エンリコ4世”の中の曲です。Oblivionは英語で“忘却”の意味です。原曲はミロンガのリズムによるピアノ独奏曲ですが、その後、イタリアの歌手ミルヴァがフランス語の歌詞を付けて歌って大ヒットしました。

【バンドネオンの嘆き】 バイオリンソロ

日本でも有名なタンゴ“カミニート”の作曲者であるフアン・デ・ディオス・フィリベルト (Juan de Dios Filiberto, 1885-1964) が1918年に作曲したアルゼンチンタンゴの古典的な名曲です。長い間に凝った変奏が付け加えられたりして様々な演奏が行われてきました。今回のステージではどのような演奏になるのでしょうか。

【タンゴの歴史】

ピアソラが1980年にフルートとギターのために書いた4楽章の曲で、各楽章が1900年以降のタンゴの歴史を描いています。

第1楽章 1900年、売春宿。1882年にブエノスアイレスで生まれた曲を原曲としています。

第2楽章 1930年、カフェ。タンゴが踊る音楽から聴く音楽に変質。

第3楽章 1960年、ナイトクラブ。タンゴが大幅な改革の時期を迎え、聴衆がナイトクラブに殺到。

第4楽章 (1980年) 現代のコンサートホール。現代音楽との融合、無調と調性の入り混じり。

【ノクトゥルナ】

1959年、フリアン・プラサ (Julián Plaza 1928-2003) の作曲。プラサは踊ることができるタンゴにモダンな味付けをするバランスに優れていました。タイトルは夜想曲という意味ですが、ミロンガのリズムで書かれたこの作品が表現しているのは「タンゴの夜」です。夜の繁華街のにぎやかさを表す半音階の速いフレーズと甘美なメロディーの組み合わせから成ります。